

31:31 見よ。その日が来る。・・主の御告げ。・・その日、わたしは、イスラエルの家とユダの家とに、新しい契約を結ぶ。

31:32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を握って、エジプトの国から連れ出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破ってしまった。・・主の御告げ。・・

31:33 彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。・・主の御告げ。・・わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

31:34 そのようにして、人々はもはや、『主を知れ。』と言って、おのおの互いに教えない。それは、彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るからだ。・・主の御告げ。・・わたしは彼らの咎を赦し、彼らの罪を二度と思ひ出さないからだ。』

31:35 主はこう仰せられる。主は太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名は万軍の主。

31:36 「もし、これらの定めがわたしの前から取り去られるなら、・・主の御告げ。・・イスラエルの子孫も、絶え、いつまでもわたしの前で、一つの民をなすことはできない。」

31:37 主はこう仰せられる。「もし、上の天が測られ、下の地の基が探り出されるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行なったすべての事のために退けよう。・・主の御告げ。・・

31:38 見よ。その日が来る。・・主の御告げ。・・その日、この町は、ハナヌエルのやぐらから隅の門まで、主のために建て直される。

31:39 測りなわは、さらにそれよりガレブの丘に伸び、ゴアのほうに向かう。

31:40 死体と灰との谷全体、キデロン川と東の方、馬の門の隅までの畑は、みな主に聖別され、もはやとこしえに根こぎにされず、こわされることもない。」

「新しい契約」とあります。イスラエルが始めの契約を破ったからです。このように神様は背信の咎めを負わせて責任追及することが目的ではなく、最後には祝福を与えたいと願っておられる愛の方なのです。

「彼らの心に書きしるす。」とは聖霊によらなければできないことであり、またその大前提は主イエスの十字架です。35節からは万軍の権威ある方が、「この定め」について保証しておられること、38節からはエルサレムの拡張と再建が約束されています。

主は聖なる方、義なる方ですから、私たちには背信は赦されませんが、それも主の愛のゆえであることを知りましょう。そして主は新しい契約を備えてでも祝福してくださることを信じましょう。その本質はイエス様の十字架の救いにありますから、いつもそこに立ち返りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

